

はじめまして。赤ちゃん。

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

地区名	亡くなった方	満年齢
-----	--------	-----

※右記12月受け付け分(敬称略)情報は、広報紙掲載に対して、ご家族等に同意を頂いております。

西海俳句会
 久しぶり娘が来て街へ菊日和
 木枯に負けじと歌う大声で
 夜長さめ亡母なき孫らを思うかな
 飼ひ猫に両手拡ぐる春着の子
 河豚釣りが豊後水道風ぎ渡り
 檳榔子俳句会
 白菜の小さきを選び荷の中に
 車椅子拭いて終りし年用意

清水 麗子
 竹村 勝利
 中川千代子
 濱 初榮
 木村 智子
 吉田 笑代
 浜木チズエ
 利根早智江
 吉田 勝也
 吉田 弘定
 山口 董
 吉田モミエ

内海俳句会
 前掛けをきりりと結び年用意
 白菜の浅漬け祖母の刻み柚子
 人々の足早となる年用意
 目薬のこぼれてかなし十二月
 山茶花や日のある方へ人集う
 地蔵にも一輪供え年用意
 をさなごの公園デビユー冬うらら
 白菜の浅漬けといふ箸休め
 夢咲かす蝶もこぬかや忘れ花
 手のひらに宇宙回すや木の実独楽
 寒冷に凜と梅花の白極む
 泰の夜明を詠う瀬戸の波

三好ミキエ
 泉くらら
 五島 節子
 吉田 朝子
 濱野 康子
 田中 博子
 山口 和子
 井上 論天
 岩森十志子
 太田 信子

▶歌人をご紹介します

さわらび短歌会 前田 知子さん(満倉)

「歌は歌中、人は人中、一本松さわらび短歌会に入会されたし」昭和56年南予短歌大会の後に入多泰先生からはがきを頂きました。伝統のあるさわらび短歌会に入会しましたが、当時の会は歌歴30年以上の方たちばかりで歯に衣着せぬ歌評でした。その歌評が聞きたくて休みませんでした。短歌は、歌会こそが学びの場だと思いました。さわらび短歌会の方たちは、日本語の調べや語法を大切に、厳しさの中にも温もりのある歌会なのでした。農家の主婦が多く、土に生きる人たちの歌には力強さがあり素朴さがありました。



入多先生のご縁で学べる幸せを思います。「一握の砂」の韻律を模倣しながら作歌を始めましたが、短歌の奥深さに気づき心の支えになりました。日記を記すように素の自分と向き合い作歌することで人生の急坂を越えてきました。短歌は自分との対話に思えます。歌は歌中、来月の歌会が待たれます。

死亡後の手続きについては町ホームページをご覧ください。



愛南町ホームページ